



図説 都筑の歴史

『図説 都筑の歴史』

定価:本体2,000円+税
体裁:A4判 フルカラー 約260頁
編集:『図説 都筑の歴史』編さん委員会
発行:都筑区ふるさとづくり委員会

取扱い店舗

- ・有隣堂センター南駅店
- ・ブックファーストモザイクモール港北店 (モザイクモール港北2階)
- ・ACADEMIA港北店 (ノースポルト・モール3階)
- ・都筑区役所1階売店(11月11日(月)~)



都筑区制25周年記念

図説 都筑の歴史

令和元年11月9日(土)発行

第1章 原始

定住生活のはじまり—縄文時代早期—

生活様式の 確立 (伊穴住居のムラ)

約1万年前になると、気候の温暖化が進み、東京湾に海水が入り込み、魚貝類を採集した人々が、根拠地を築き住居を形成した。一方、国内の広大な森林がしだいに広がると、それを食料源とする人々が狩猟生活を送るようになった。

区内では、早期の縄文(徳島支遺跡)のムラが発見された。大塚遺跡(大塚西)、善ノ谷貝塚(南山田二丁目)、山田大塚遺跡(東山田一丁目)などで、早期全体では3遺跡、旧野ほどの住居が見られている。浅い平地で築かれた縄文時代の住居は、縄文時代早期の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。



2 善ノ谷貝塚の縄文時代早期の土器。縄文時代の土器の一例である。

し、縄文、土器で煮炊きした。約1000年前、約2000年前に発見されている。早期後半(赤坂支遺跡)に発見される。その末期には見られなくなる。



狩猟法の 変革 (矚し穴の増大)

伊穴と並んでこの時期を特徴とする遺跡が、伊穴の増大である。伊穴は、区内で約100遺跡、約2000年前に発見されている。早期後半(赤坂支遺跡)に発見される。その末期には見られなくなる。

伊穴は、縄文時代早期の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。

伊穴は、縄文時代早期の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。



5 小塚遺跡から発見された矚し穴。遺跡に遺棄されたと思われる。

伊穴は、縄文時代早期の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。



1 善ノ谷貝塚の縄文時代早期の土器。手前は大塚遺跡。奥には小塚遺跡が見える。

伊穴は、縄文時代早期の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。



3 善ノ谷貝塚の縄文時代早期の土器。縄文時代の土器の一例である。

伊穴は、縄文時代早期の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。伊穴の多くは、縄文時代の住居と見られる。



4 大塚遺跡から発見された矚し穴。遺跡に遺棄されたと思われる。



6 『縄文遺跡』(徳島支遺跡)の縄文時代の住居。Image: TNA Image Archives



【お問合せ】
『図説 都筑の歴史』編さん委員会事務局(都筑区役所地域振興課内)
TEL:045-948-2236 FAX:045-948-2239

日記に見る都筑の村の一年

はじめに

用務村は谷本川に沿った低地に開けた村で、都筑区の南西部に位置する。江戸時代初期には代官軍奉行の森家お江(領院)の化粧所だったが、寛文9年(1669)に神楽山寺鎮となった。森家新御所の石山は2021年(百五周年祝賀調製)、人口30人(「新編 都筑市史」)と平野村の集落の村である。市原村の村役人である長谷川忠信には古主太左衛門(同)の天保15年(1844)の日記(「都筑市史資料館」)が伝えられており、村の一年のくらしを知る事ができる。

夏

太郎右衛門は3月28日から(天満)のたむけ館に勤める。同行は3人。4月11日に帰宅した。5月5日は端午の節句。森作業を休んで「日直夜直後草紙」を、菓店(寺)へ行った。この年は5月7日と14日におこなった。農繁期には、田植えと兼行して、小夏を刈り取る。しかし5月は雨が降り続いたため、小夏の出来は悪く、稔も悪色している。村では「武蔵風流の心の集い」の準備がすすんで、寺でも新調おこなった。



秋

天保15年の元日は「快晴。朝日影にしておだやか」だった。市原村の村役人である長谷川忠信は「新編 都筑市史資料館」の天保15年(1844)の日記(「都筑市史資料館」)が伝えられており、村の一年のくらしを知る事ができる。

冬

稲刈りを終えてはけはくさくさ。10月13日、太郎右衛門は鎌倉のおすい夜に出かけた。同夜に参詣して無日光明寺の法会に参加。江戸も暖かして15日に帰宅した。11月の中旬から山刈りをおこなう。同夜きに使う籠も、籠屋をつくる籠もを集める。11月のはじめ、都筑区では市ヶ野村まで荒れ出し、6日から屋敷を焼く。毒菜を収穫する。畑の草を刈るに際して「告知り」もおこなう。6月28日、「緑葉より谷本川についで身体も焼く」。都筑市史(の巻)には1月21日が命日であり、地主寺の村々では月命日の次日を忌日として休日にしている。

田植えと兼行して、小夏を刈り取る。しかし5月は雨が降り続いたため、小夏の出来は悪く、稔も悪色している。



稲刈りを終えてはけはくさくさ。10月13日、太郎右衛門は鎌倉のおすい夜に出かけた。

12月の下旬には隣の北八間村にくわ竹を切りに行く。田畑を作るのに用いる竹である。

12月20日は日持ち。村の仲間たちと一夜を明けし日の酒を飲む。30人はどの客も集まった。夜中から籠つきをして、翌日の朝まであてどなりました。

12月25日、新年にこなえて餅つきをする。夜中・朝中には餅つきを続ける。30日、無事に大晦日を迎えたことを祝う。用務村の1年はこうして終わる。



4. 実を重りに足踏る。文化11年(1844) 狩野五郎 青鳥画「西学開港船」(部分) 都筑市史資料館蔵

組見本 約50%縮小

◆ 本書の特色 ◆

1. 都筑史上初、原始～現代までの歴史を一挙に解説

都筑には、これまで原始から現代までの歴史を総合的・通史的にまとめた書籍等はありませんでした。本書が初めての都筑の通史本となります。日本史の中に位置づく都筑3万年の歴史をお楽しみください。

2. 新たな調査により発見された新事実を掲載

残されている貴重な資料はもちろんのこと、新たに調査を行うことで得られた発見についても掲載しています。

3. 写真・図版を約500点以上収録

写真や図版を多く使い、都筑の歴史をビジュアルに解説しています。



▲板碑の拓本採取



▲たたみ6畳ほどの茅ヶ崎村の村絵図



▲歴史資料や現代の様子等、多様な図版を掲載

◆ 目次 ◆

序章

都筑の風土と歩み／港北ニュータウン遺跡群の発掘調査／都筑区主要遺跡および関連遺跡図

第1章 原始

地形・火山灰と石の道具／森のめぐみと土器の始まり―花見山遺跡―／定住生活のはじまり―縄文時代早期―／縄文海進と貝塚ムラ／大きなムラと山・海の幸／湿地を渡る縄文人―古梅谷遺跡の木道―／縄文社会のたそがれ／イネ作りと環濠ムラ／鉄器の普及と地域社会の確立／方形周溝墓から古墳へ／武人たちのモニュメント／古墳をつくった人々のムラ／黄泉の国の入口―横穴墓の世界―

第2章 古代

古代国家の地域支配の成立と「都筑区」／西へ、東へ―様々な負担を担う人びと―／古代のムラと神・仏／「兵」(つわもの)の時代へ／古代の杉山神社

第3章 中世

中世の杉山神社／平安末～鎌倉期 高名の馬飼 都筑平太／鎌倉の覇権争いと都筑郡の武士達／中世前期の郷村の様子／荏田郷の領主と信仰／高田郷への強入部と醍醐寺三寶院の訴え／地域に残る中世城郭「茅ヶ崎城」／小机領の地侍と農民／村の金融業者と百姓の借金事情／戦国期から近世初頭の村と村人／ある地侍の戦国から江戸時代／中世の道 鎌倉道・中原街道／中世人の折りと形／石造物から歴史をさぐる／地下からのメッセージ

第4章 近世

区域の領主たち／領主の支配と村の負担／中原街道と区域の村々／村絵図に見る村の姿／山と村／川とため池／江戸時代の住まいとくらし／日記に見る都筑の村の一年／掘り出された名主屋敷―オミエ屋敷と墓地―／大山信仰と富士信仰／村人の霊場巡り／人びとの祈りと祭り／石造物の世界／都筑の名所 淡島神社／俳諧の世界／力持ち芸人と力石／寺子屋と私塾／幕末・維新期の区域

第5章 近代

明治初期の村の姿／地方行政機構の再編／都筑郡役所位置変換運動／都筑の県議会議員の顔ぶれ／近代教育のはじまり／都筑の自由民権運動／近代の村の誕生／日清・日露戦争と都筑区―都筑郡農会と村農会／地域のくらし―中川村の村史調査から―／文雅の世界／川和の菊園と秋光会／日本各地で活躍―都筑物理学の群像―／都筑の出版文化／養蚕・製糸・乾蘭処理／耕地整理の促進／関東大震災／都筑の農村に憩う詩人／蔬菜と果実・筍の産地／川和の市・川和の街並み／鶴見川の改修／横浜市との合併／戦時下の都筑区

第6章 現代

食糧供給に貢献した農家／新制中学校の誕生／港北ニュータウン―農村から都市へ―／まちはプランづくりから始まった／住民参加のまちづくり／水と緑の豊かなまち／住宅都市から多機能複合都市へ／社会の変化に対応したまちづくり／遺跡がたくさんあったまち／都筑区の誕生／周年事業にみる発展する都筑／住み続けたい街「つづき」／都筑区で育まれる市民力／都筑区のものづくり／都筑区は農業／都筑区は現況とこれから



▲炎天下の発掘風景 大塚遺跡



▲柄鏡形住居 小丸遺跡



▲さまざまな鉄器 ▲阿弥陀三尊種子 板碑



▲茅ヶ崎三組講中掛軸 ▲川和の菊の絵葉書



▲ふるさとの樹木とせせらぎのある緑道を散歩する老夫婦